



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 JAPAN 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 2 3

東都

王
董
書
風
流
集

崔主
東三
人山

卷中按 雖風雅會勝坐列舞
序官家諸侯已下不
題館号樓号等之類

五点之部兄座
修り考の早ぬ乃
苔乃もくわ
多き事で少きの森入
力もかかる
多す事使ひもあん
行乃もね
多す事使ひもあん
弱り多くつよみて白
をとる
さくみ
す。もの余りとされ
りよりま。ぬ
ホツ
冠李
記石
松竹を除てしま
む。一。ろか
紫やと水すらあや
すくみ
欲のあひよね
タノ乃
車、杜氏
か。昔のよみ
うセツ
タ山ち弱の布ミ
うれタ
さ、つともあはれ、雨
牛安
勝ひり
月のまくのよ薄
流も川脚を弱
多す事
半鬼
梅月
全
奇峯
冠李
記石
全
文草
桂
全
全
全
全
全
志月
三枝
十桂

五点之音兼座 水平水口是の軒やかとまく
柳一本いと町中乃夕カリす み
田乃りあめや川で訓ゆる柳乃生
ひ夕くきば吞んで月吐かく柳乃生
ひ夕くきば吞んで月吐かく柳乃生
打つひ細乃根をよえとやま
し鳥来てみそめ月乃付より
下り茶乃ちくやうの垂ちうれ
下り茶乃ちくやうの垂ちうれ
人やスル正もりすこの人乃お
あつゝさうもそくよもすむ山
ひも乃袖ふりせんて壺の毛
ひも乃袖あそちり天社日
せつとからうのあや極せり
馬乃耳シカ一てりひもる
堀出と目乃さんくわ
カシ、サヤ、コソクナセをき西う四
かくらきけはくじとそかくうド
拂ひとくもんめやや春の小風つき
掃出せと皆あくもくわ
妻をむのゆき鶯鶯の尾すくわ
ひも乃休而ちり乍たトト
万さくよのれのれ夜の轟と井乃
ふりや、夜の轟あつ都アカリ
子をあざるをのれのれ
、、、、、
如李兒以奇杏鳳南鳩曙美竹連我
可剗雀年亭笠全明栗全洗
葱光石

森さくやませの
陥げりの田より
縄もくよみ
牛の雪鳥乃
と
鬼もくよみ
かまく乃
支えめ
万才ト貸してをせ
タクニ半生
大鬼乃
桐山香り
致ち
伎乃まし眠る日ひや
たけ打
松し鳥
年少ハ扇うち笑ひて
うりを指す
捨うれつことつあふの
もる乃ゆき
、安トミ潤水
春乃雪夜寐てアモ
竹林寺
信中
ちよおやもむけ候乃
ゆゑな久日
はくの年景
タカナリ
サツ
秋田
杏蔭
ミムクリヤムの年景
タラシ
春乃雪階
あ略
あ略
江
仙翁
星徳
瓠年
桐泉

月文紫義左柳扇櫓桐吐雨如一窓王後文文翁柳雙龜桺素左
斗有拾歸
流水雪友李好佐坊泉曉竹文靜雨泉月瑠草於岡秀仙一琴琴全白川瓢厚

夕かすみ
かく秋の山をとる
舟乃とも
舟をくら
まつり待あら
舟乃あり
壁丸れしを覗くはれ
舟至やかく庸月を
やうり峯
涼しきを尋や心隨ひ
役めしやくよすり
やくらす
理をもともほてあむか
せきりしゆ
えて春る毎のゆりや
タスミ
涼もやつまをば除
あくく
曉や高乃のりと
まことらる
森をしてよかふをと
やうの峯
や雀のあらてよひみ
よひてよひ
よひてよひ
千之
几留
口言
士同
巴翁
苔丈
把菊
素雄
士徳
再可
大山

景士再素苔壘玄紫永巴士甫几千亞文春砂守左器竹和花
山德可雄全夾全里全來全胤枝翁同立留之圭尺調月一腹全水石清香

まつう帆よなみを

全

すに生や作りとる

信善光

一考

はをのくもくる
ひきゆゑのを

仙

伊

山

きの欲大ひと
あれやあ

樹

の

苔

の香やさすて
苔のきと峭

蘿

の

香

の香乃とさせす
3月あが

果

の

香

みまきて好度次と
ほしき

二日月のす

木

は

はけたて好度次と
ほしき

東

九

龜

はくもくと車へす

本

は

は

かくもくと車へす

木

は

は

はくもくと車へす

本

は

は

かくもくと車へす

木

は

は

金

全

英

泉

全

蒼

官

全

馬

紅

全

幽

全

馬

全

鷹

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全

金

全</p

何か日和神あれよ、ますう
モリノ峯、町やつらうつ
タタヌミ、浦の欲コニ黒あちき
おりやありも、曉を
きかほる、早朝の具つむ更う
桺さん坊、実塞を詠つて、
あせぶ、峰丸
筑くの筋、酒度を
すーの右、峰山の日枝、ゆりや
座石、さくらん節、孤雲
そなえ、れせん
弟の、を
うねく乃ぬ、一、嵐庭
美の、やや
吉野山、はまと坐り、
がくく、えり
苦悽やあ、アタヒ
庵あや、信木文雅
草まで、あて、えを
もや、歌ひる
信東々良父

木下久干上野守

全

下サハ東溟
湖のうしろ蕪りや
仙翁松可
星國
星德

寺の　寺
ニトヘナリヤ　セラモヒテク
セラモヒテク　全
考へて居る　御羽事の
博ノカヒく　水戸守真
ほ連はれ　シヤサム石
や昔のど　全
す一うの　ふひまく
更フタツ　ホツ　稻五
内あきあたハノ　御羽事
アツミ山　ホツツヨ　癸年
同室日暮戸ル君也
セリト　全
望塔ノ木よもえて　雪丸
市村もる　全

あまくしてくるも春よりえへゆく
さくらさや小舟すれ合ふえ
すの雪るゑのそつゝあと
まはるよなからま帆片 塙 下サ
やんづきおの日あ一や 苛口乃 かま
浦りあめ苦くをつ垣根も
虎石ひとおがりきりまの 壁
あちとがへうぬ石やおけ乃もち
苦もせまきよし乃下町 カニハニ
えり口も秋ハ来ぬ 乞口乃も
およさりるよまちきつてタモ
おのれのまきよし あきまゆり草
葉の戸内町も深きあきまゆり草
あうきやあうせあ乃うくの三日乃月
きじやあともそり翁乃
きりもまわらあく出葉あくま
香葉よのくあく出葉あくま
川せ乃備角牛もとてあはきあ
鶴のやあきあ乃中のめれ佛
翁も食乃はきあはきあひり
片町やまくさりまわり來もハツト
山をもぐらゆき歩てやまつ乃峯 齊川下
あひり來も枕もあけ乃たか
あひり紫スリ水よき多
筋肌絞て生たつ人やさくの君
筋筋筋の小湯や破色 亂

秀一吹玉年矣山女芝盛匏花明道朝仙曲龟李笑全全步月仙波溪南盤百弓馬月一月

ましの葉乃赤門より
忍は女を一かず
いとおもへ
日よきう月あらへても
まつり　茎　、キセ　長沙
楠のあらがうのとく
サロノをもふ
ミタス枕り汁みる聲
あらはかも　、玉河
またさと泊れど
浦田　有　其声
あやかしのうさをす
あやかしの山をさ
アラミ　芦鴨　節譯
あらかふとも　ホシ石
あらかふとも　ホシ石
アラミ　芦鴨　節譯
あらかふとも　ホシ石
アラミ　芦鴨　節譯
あらかふとも　ホシ石
アラミ　芦鴨　節譯
の小鳥　信州　野翠
大佛の酒を酔ひにま
まなかあ
船宿はねをねた
乃江の事　文甫
宿すよ著まつむやく
望むよ　ミハル　勿言
物のまくちうきて
まくちうきて
あらかふとも　ホシ石
苔のむき

井の蓋とくればひひのえまかぬか那
魚河乃ゑもとおおわ打ワウカモカモ
もとの峯より高るも取古ウカモカモ
あさーーをうりたる萬葉乃面
欲もむくをねおかむ五月
毛鳥や芦をちり乃水乃く
毛乃日之英乃月毛をかく
毛の毛乃あゆとよとよの涼乃ゆ
あくのひやのめりてあけく
がせん乃鳥乃備乃りおか御
世乃れはきりまあるあくへなるのみ
樹木の竿乃りあくへや剪く白く
研むる聲ルありてわうを
さしひやあらまを赤毛乃一おどり
鶴翠あや 四川 挑
義（）毛根乃うくまであけたりをま
もの生む也（）りそなき心セリ
毛乃毛アヤモリ、もひよリ毛乃月
猿毛（）枝乃アヤモリ、乃毛みかま
猿毛（）猿毛（）一おも
毛月ヤシモモ（）月谷乃あ

廿三一宜佳風綠垂柳舊船井巴 莳吳昌 宗 鷄雷敬紙江白弟乘草雲
顏朝帆春笑曲水朝車選月翦陵全齋包曉全有全二二續川圭圭八里吟志

芳齋
巴陵
雀子
一方
樣車
全
佳笑
秋戶
全
宜春
故東
全
玉且
全
星守
全
秋田

烏陽阿淺歌旭里
夕李毛綉淵志松
楚曉雪烏一國里
篁山逢同笑士山
竹井木 雪春太喜
子庭山枝全
其真一風子
且白文蒿丈
巖乙汀

宝體と筆觸上一と見て、
而も、主に
合羽チに日和をねう
あらまえ
水うてやまくらの門の
常日
歸人乃往來す前と
あへり
かへせしの事より既日や
大更に極ん
そむすりの生て疎さう
まくら
タイ松坂漣満子
ちゆきとみよ
抱せり
首のあぬくおくれて
あくべ
戸久松丁
峨月
あう日すこまよ夕を
あふれ
あくの香やかのち
笠アリ
かはぢくや是も花叢
紫おりば
ちの香や袖をなあね
紫アリ
波ちのまくら
墨アリ
鶴牛のひし
うちのまくら
ウツミヤ其友
阿丸
梵籠

龜橋白一百聞慈史沾對醉
杉路青可山鳳兒雨南南竹龜
清枝鏡布里良川橋全左風全全全枝仙鹽堂杏尾雀竹英桂全樹武

入きより
菊くらひ／虫のふよ
火ふりつる
きのせよ史よも歎
さりさり
かはきの牛角のすや
鶴乃老友
川せきや納づひまく
小あつす
ひくきのまくおこかる
よりまと
まくけよ銀葉吉声
をユミタク
まく春轉
蝶也
日あれハテヨリモル落
のちみや
申之
翁、比乃きのまかへて
まこと
半嶺
すの落こうや外山
ニツニツ
遠寺高氏松
さくとくや日よとある
よろこむわく
あくを引き出外
する内中
きの杏やまく文書の
豹
せきと薦すれり
あふるさす
あまく一筆の花ひの
絵も

不二乃出水、こひよりふう一表すし
何あかやふじと日乃きなせ皆乃ちま
重くひ歯めり、白いも床、一あさく
等す玉ふり白いも床、一あさく
きのゆのあを、ほよ、こり
そこの雪や、あそちかくさほみま
素乃まの根ハ朽コリ、筋の面
石女の、人ノふかく、てまみかふ
きのあまとせりて、まくは、時め坊
まく、讀て、饅頭、おとせ、新しく
月のさくま、り、よ、あくは、
水干、隈ちくさまで、きのちく、うぬ
さくはり、き、よ居る、あくは、り
とよー、ちかうの外なり、あくは、やお
るの脊ふけつ、もしもしる、くの、まかあ
るのよよよ、り、掉させ、き、り、く
閑雨乃、猶おもむ、や、苦乃、ちよ
ちく、一、まや、待する、月の緋乃、うく
山寺乃、田向、る、す、や、
まの、の、主、や、か、す、の、水、
ま、一、元世ハ、主、す、例、あり、宵月、
まの、の、社乃、名、す、の、水、
伊、ト、や、萬、を、葉、よ、あ、
ま、ミセ、や、さ、す、の、水、
夕月を、ぐ、お、夕、を、夕、わ、
が、せ、ア、リ、や、す、の、水、
そ、の、さ、ハ、内、あ、う、夕、ま、み、ま、
あ、ま、よ、自、の、水、か、る、み、ま、
幕、え、ほ、よ、や、ひ、さ、り、や、
ま、乃、ま、小、ホ、リ

素西歎竹李太崔淇得湖竹鴻蚌路扇池印諸
轂首可花吐鳳雨鳥芦椿無徃吟坡臨明い山
老竹く月亭只文王風月月白竈水竈谷毛竈曉角人月丸

草の葉の下に花を咲かせ
うる戸口ト
ゆかする鶯のよしら
前々歳のナタ諸白
春うるあよさきシルタクナタ
小ちくま
前々のやうあひて雀乃
さきりそかな
涼しよむよむまへまの
とけ安ナタ
ぬ照らす垣根も物杞の
うきよき外
まほしさよ衣れり更れ
隅田川
るより、半のよし
かくさは
よの戸や草刈代ササハラで
月を待
まじきよめの木坂の
半いあ
かがやくよみめうりあり
呼連る
桶カスクもよ脚カスのづくを
夕立ちみ
雨桂カツラ吹くまつする
よし禁カニ
太あくよ押出されど
まみ蔬カブト
井ノ米丸

月夜春の月と生う
早さしやよー巻團の
うえを
ちうのこをちつかーき、
まの雪の仙鳥くも
あかうくつ
あうせーてねあくや、
比丘の袖
京しやえの端の
柏子ぬけ
もーさやカくよ
ま乃くよ
水の中れ
赤い鷺
そよぎて目よ三毛
つ約けく
まくよ扇あり
様火ト
ひやはくや氣味
まの生
信土末鳥溪
おうのゆいふきと
そくより
萬よきと古おはな
のよき
ありあるあけよる
の山おう
はせくち居の色や
らうお葉
其卵

守隨椿鯉草木巴樹里馬棟廿露桂春市杏竹柰玄五玉田市風以日
全全白馬全臺讚福人蜀村曉良老月桂羅人交杜馬風鳥道田雀山夜文紅

當年四海句双組入六印之部

三十日まで在りまし
る。お筋草のうみは名よひれ
る朝をさうキ。雲の峯
むち。おもて仕やりぬまぢを
秋風のたとえ。葵力味
苗ひ秀の園入あやあくま
葉の青やアソのゆもくわす
ち蓮。ゆき絆乃きのゆ
絆の季よわかももと作。なきかす
川せみやるともひさされ都のそ
茅のよしよし。生月乃めりかれ
魚やくもほくもく。ありはえ
茅のよしよし。かくみのよ
木戸脛。木フ

定枝の二三字菴^{アシキ}あまよひ
持^{ハサウエ}勝材^{セイザイ}もゆすけ 布^{ハタケ}モロ
幸^{ラカニ}候^ハへ向^{ハシマ}やまき 朝^{ハタケ}乃^ハ蓋^{カバ}
以^{ハシマ}かひを^{ハシマ}すまく涼^{ハシマ}む戸口^{ハシマ}かを
毛^{モモ}モモヤ待^{ハシマ}う折^{ハシマ}舟^{ハシマ}此^{ハシマ}系^{ハシマ}
か^{ハシマ}せ^{ハシマ}約^{ハシマ}年^{ハシマ}候^{ハシマ}モリ^{ハシマ}り
蓑^{ハシマ}か^{ハシマ}秋^{ハシマ}もる^{ハシマ}と^{ハシマ}かく^{ハシマ}ぬ^{ハシマ}ま^{ハシマ}を
白^{ハシマ}茎^{ハシマ}の^{ハシマ}雪^{ハシマ}そ^{ハシマ}羅^{ハシマ}ホ^{ハシマ}ク^{ハシマ}ル^{ハシマ}り
茅^{ハシマ}の^{ハシマ}よ^{ハシマ}吸^{ハシマ}壳^{ハシマ}ふ^{ハシマ}や 氷^{ハシマ}室^{ハシマ}守^{ハシマ}
序^{ハシマ}は^{ハシマ}よ^{ハシマ}古^{ハシマ}終^{ハシマ}よ^{ハシマ}を^{ハシマ}了^{ハシマ}月^{ハシマ}日^{ハシマ}か^{ハシマ}
室^{ハシマ}自^{ハシマ}も^{ハシマ}ま^{ハシマ}肱^{ハシマ}枕^{ハシマ}せん^{ハシマ}草^{ハシマ}力^{ハシマ}も^{ハシマ}
門^{ハシマ}納^{ハシマ}涼^{ハシマ}人^{ハシマ}乃^{ハシマ}内^{ハシマ}お^{ハシマ}と^{ハシマ}み^{ハシマ}あ^{ハシマ}く
簫^{ハシマ}持^{ハシマ}くアラモ^{ハシマ}ミ^{ハシマ}アリ^{ハシマ}も^{ハシマ}と^{ハシマ}も^{ハシマ}れ
止^{ハシマ}ム^{ハシマ}あ^{ハシマ}け^{ハシマ}レ^{ハシマ}持^{ハシマ}虎^{ハシマ}ミ^{ハシマ}や^{ハシマ}雪^{ハシマ}力^{ハシマ}筆^{ハシマ}

是元 午 舶子
方玄子
方泉子
人全泉
人全泉
山鷺
山鷺
常十之
千
篤夫
篤夫
牛乳
牛乳
春
春
仙夕
星
星
國
國
德
德
林全
林全
月
月

吳相馬
水戸
木曾
ヨク想
ヨリ
房川下
信アヌ
朱延昇右
弓可杜
吳杜蝶松乙松春守湖
月笑明全山郷撰守人月明真秋
但ニ方
ムラ
信上田

信ライウ

霞山

水ちく／＼まの葉の上をうり月あ
草よも／＼心くらうてあき世うらり、サヰ

、長セ

川をみやひから白の水く／＼

、ヨシタ

川なげれ朝く／＼あく／＼月の昔、

仙臺モトミヤ

川をみや魚と／＼せめられり上

秋田

魚市をく／＼

房蓋三六ル

故をかはれて去りうち其壠

、

僕山や竹のまゝとおもむき

、

假想のうみ／＼御へよ川納涼

對破連

研／＼伽藍／＼ややほ／＼

、

もすけ／＼もく／＼時もかぬひしり

、

一刷毛の絵画不二やあま風

春嶽月

朝夕あかねに霞やふく季あ參

太乙子

月の生すあてとおせん鉢の石

器守

涼／＼はやおろかよ引／＼魚写子

、西國

涼／＼はのとも火丸などれり

、

小浦の旅難波ありゆる柳陰

、

涼／＼はとあるよとせり門邊

、

あたなみ人よゑりりす苔そり岩

、

根すみつねるよくさと草の散

、

うの戸やはく／＼よちかたのあを

、

青園をわせりのいき納涼草

、

草よい角あともおせしわのいろ

、

白車は続力うちも雪せみ

、

足とく／＼船とも船をれと手見

、

まみみ母とひ／＼手をちすか取

、

ヲクホ華下

一

水理

三六子

一笑

ヨツ谷

鳥同

本所

雪達

秋田

如竹

石川

斗白

奥岩キ

吐曉

富泉

班對

家月

沾岳

蘭路

兔母

仙巖

文理

咲くの爲けちらよほけ草の聲え
草の香れひとときハたうちぬる草の聲え
もはやりまつりきを経よばく
傾世のあらとをそんじや一衣は
待ねより同半端のほときた
見一と夏あともほきもほく草のる
きのへや尼よふもいもるよむ草
窓ナリアリアリ草もの声はかえ危
莉子や草をえうせうせうせう
夕暮れをちうとや風な草ふはふ
捨てゆくやありまくす者力心
第日乃舟水もせり草のる
舟ゆくハ幸力名取山の山
飯能よ生萬の主能をとくと危
復佛の塔うらわややものみ
ナク井手

木戸
常玉手
下ササ
常玉手
下ササ
常玉手
下ササ
常玉手
下ササ
常玉手
信平林
但子辰
原二
竹翠
勒居有
宗有
半月
湖柳
竹馬
ナキモ
日木シ
峠兆
仙風
桂羅
樹村
巴蜀
騎勢
紫雪
研月
磨里
上井
江戸
房天ツ
三カハ
江戸
木戸
千未
常玉手
一サウ
知牛
孤雲
汎代女
木戸
木戸又カタ
ツカル
多那山
七魚部
わゆのす皆とく生うみ蓮がる
水墨く小舟や草め舟歌り
蓬の宿御はぬ踊りて漫をり
囁やうそりうらの班不ニ
豊水
芦魚
雀老
若雨
仕候
来山
規外
山
木戸
常玉手
下ササ
常玉手
下ササ
常玉手
下ササ
常玉手
信平林
但子辰
原二
竹翠
勒居有
宗有
半月
湖柳
竹馬
ナキモ
日木シ
峠兆
仙風
桂羅
樹村
巴蜀
騎勢
紫雪
研月
磨里
上井
江戸
房天ツ
三カハ
江戸
木戸
千未
常玉手
一サウ
知牛
孤雲
汎代女
木戸
木戸又カタ
ツカル
多那山

氣清塊乾

九月之摺高士
象畫彷彿
若翁以爲塵也

廿五年
下殉守亦俗
鶴老
東都久松樹
身羽

田三五
水戸郡田
橋井

同 題
東都畫苑
朱花

芝
仙
武
刃
枝

支那の一方ニシテ上梓する余裕
色加沙持経本ノリ
又之等の如きやはしき

指掌
其色
如

玄季遂向一方二千以土猝于余以

秀逸

涼一 はとを梯お遇ふよひく木立後
雪のふるふせき下さむや天の向

可竜
ちのふ

川せきみをかねまきもせんすり火うち
十点

仙鶴老

三日月の細い糸をくわへ、英力味
幸いも夢はすりへお名をこなす

丁巳年 梅月
下サ守谷 出子

さうか接乃はかどりし人やれやうの峰
筋のきよよあつてのちくははとめもや

下巻
全
枝
松
川
力
フ

住む人のちり角もえや川苔乃花
能の秀よやくきて四川 四条川

卷之二

田の水をみてくらゐましむか
う茶あかうけは根と杭の茎葉が

房州玉器玩

夢の解き事なかつてうなづきと聞かぬ且牛乳
あくまづかゆのうち月夜 告乃る

信大川
竹雄

水玉花

吳福山
東
松

